東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 2 月 27 日

イマーム・アザーム・アブー・ハニーファ

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安がありますように）はあるハディースで「学者たちは預言者たちの相続人である」とおっしゃられています。今日は偉大な学者たちの一人イマーム・アザームを、多くの伝説のうちいくつかと共に簡単に紹介しましょう。

ハナフィー派の創始者でありイマームであるアブー・ハニーファ（イスラーム暦 150 年・西暦 767 年没）は当然の権利として、偉大なるイマームという意味を持つイマーム・アザームという称号を得ています。もともとの名はヌマンであり、その父の名はサーブトゥでした。西暦 699 年にクーファで生まれています。ハンマド・ビン・アブー・スライマーンに師事しています。

公正さを失ってしまうという恐れから、当時の皇帝によるイスラーム法官になるという勧めを拒否しました。そのため鞭打ち刑を受け、投獄され、最後は監獄で死去しています。入牢中はそこで出される食事をとらず、家から持ってこさせたものを食べてしのいでいました。

神学論争を行なうことを拒否する弟子たちの反応に答え、偉大なるイマームは次のように答えています。「私たちは議論を行なう際、論争に勝つことではなく真実を見出すことのために努力する。私たちが、相手が逸脱してしまう原因とならないよう、言葉を選ぶ時にはあたかも頭の上に鳥がいて私たちの言葉ゆえに飛んでいってしまうかのように注意深く心を砕く。あなたがたは真実を見出すこと以上に、自分が正しいと見なされることのために努力し、相手に返答しようとしている。」貿易を共に行なっていたハフス・ビン・アブドゥルラフマーンが、不具合のある布を通常の値段で売っていたことに対し、その見切り品から得られた全てのお金を他者に配りました。ある伝承によると、イマーム・アブー・ハニーファの隣人であるユダヤ人が、毎晩自分のごみをアブー・ハニーファの門の前に捨てていました。イマーム・アザームは毎朝そこをそうじしてごみ捨て場に運んでいましたが、隣人に何かをいうことはありませんでした。何年もが過ぎ、そのユダヤ人はユダヤ教会の牧師と彼を比較し、ムスリムとなったのです。

イマーム・アザームは羊が盗まれたことを聞き、羊の寿命が最長でどの位かを尋ねました。7 年であることを知ると、7 年間は羊の肉を口にしなかったのでした。

ある時、お金を貸していた人から返済を求めるために出かけ、その家の戸を叩きます。しかしその家の陰に入ることを避け、後ろに下がっていました。なぜそうしたのか尋ねられると、その家の陰を利用することが、借金の取り分に加算され利子を受け取ったことになり得るという恐れからそのようにしたのだと答えたのです。

イマーム・アザームの方に進んでくる動物に道を譲るため、端に寄っていました。そばにいた人がなぜそのようにするのかを尋ねると、躊躇することなく次のように答えたのでした。「あの動物には角がある。私には知恵が。」

アブー・ハニーファのもとに来たある人が、「イマームよ、私が礼拝する時にはいつも自分が持っている財産のことを思い浮かべてしまいます。私のラクダたちを思ってしまうのです。あなたはもっとたくさん持っているのに、イバーダの喜びをどのように見出しているのですか。」と尋ねます。この模範となるイマームは素晴らしい答えを返します。「私はラクダを家畜小屋につないでいるのです。私の心にではなく。」

イスラーム世界は今日、イマーム・アザームのような人々、イマーム・シャーフィーのような人々、アフマド・ビン・ハンバルのような人々をどれほど必要としていることでしょう。アッラーが彼ら皆をお慶びくださいますように。